第１４回北斗市地域公共交通会議における協議概要

＜報告事項（１）　平成２９年度南北市街地連絡バスの利用実績（２月まで）について＞

議案1ページにより、事務局から説明した。

（委　　員）　この冬は、２月から３月上旬にかけて雪害ともいえるほど大雪に見舞われたことから、ご不便をかけたこともあった。

また、インフルエンザが大流行し、利用実績としても微増状態だったものが、これらの理由により落ちてしまっている。

なお、他の路線バスにおいても、同じような影響が見受けられる。

＜報告事項（２）　深夜乗合タクシーの利用状況について＞

議案2ページにより、事務局から説明した。

（委　　員）　本格運行にあたっての申請の際、この会議での協議が整っていることを示す証明書が再び必要となる。

なお、申請は事業実施の２ヶ月前までに行う必要があるので、注意していただきたい。

＜協議事項（１）　新たなバス交通の運行計画（案）について＞

議案3ページ以降及び配布資料により事務局から説明した後、運行計画（案）の項目毎に協議を行った。

【１　運行目的】

＜特になし＞

【２　運行区間及び運行経路】

（委　　員）　運賃が１００円のままというのには限度があり、それなりの距離で運賃が上がるのは、仕方が無いことであると思う。

今年の豪雪の中、運転手の厚意で乗車しやすい場所で対応していただけたことが大変ありがたかった。

（委　　員）　運営主体と協議をして、利用者に不便をかけないということであれば、問題ないのではないか。

この場での協議とはならないと思うが、新函館北斗駅のバスロータリーにおいて、一般車を入れないということで運用しているが、今も注意看板を見ずに入ってくる一般車、送迎に来る車の目撃がある。

事故等が起きないようにするためにも、関係部局と協議していきたい。

（事 務 局）　バス協会様とも打ち合わせさせていただき、駅前広場の利用方法についても改めて検討していきたい。

【３　運行日及び運行時間帯】

（委　　員）　生徒を見ている限り、今年の大雪による大きな遅れ等はなかった。

市内の小中学校では、土曜授業を行っている。

示された運行計画では、土曜日のバス運行が９時台の開始となっており、土曜授業を実施するとすれば、その時間に合わせざるを得ないのだが、今後の見通しはどうか。

（事 務 局）　貴重なご意見をいただいた。

現時点でいろいろなニーズがあるが、まずはあまり便数を拡大せずに、現状ダイヤに近いような時間で運行し、その後の色々な声や利用状況を勘案して、見直す可能性があれば、対応していきたい。

現時点では、便数を増やすことは難しいと考えている。

【４　停留所設置の考え方】

（委　　員）　停留所についての話ということについては、町内会でも出ていない。

（会　　長）　七重浜８丁目を出発して、途中かなり混雑するということも聞いているので、利用状況を把握していただきたい。

（事 務 局）　利用状況を踏まえながら、今後も検討していきたい。

【５　運行経路（系統）】

＜特になし＞

【６　運賃の額及び適用方法】

（委　　員）　現在検討している新たな運行計画で示された路線については、すでに運行しているバス路線と一部競合する部分もある。

今後、その競合する部分の利用状況や影響について、慎重に分析していきたい。

競合路線には、国の補助金を受けている路線もあるため、そこに影響があると、収支悪化にも繋がる可能性もある。

ただ、事務局から示された運行計画（案）の中で評価・検証をしていただける仕組みを作っていただいているので、影響があった場合の見直しについてもお願いしたい。

（事 務 局）　毎年度、評価・検証しながら、すでに運行している路線バスや新たに運行するバスの利用実績等を踏まえ、必要に応じて見直していきたい。

【７　運行便数及び運行車両】

＜特になし＞

【８　運行計画の評価・検証及び見直し】

＜特になし＞

【全体を通じて】

（委　　員）　鉄道との接続について、検討していただいていることに感謝している。
住民説明会でいただいた意見について、市の意見も丁寧に説明されており、また今後高齢化を見据えた検討もされるという話もあったので、この運行計画の内容で進めていただきたい。

（委　　員）　学生や高齢者利用が多い中、現時点で定期券の導入はしないのは、どのような理由なのか。

（事 務 局）　定期券を導入しないのは、現行区間を１００円で運行している間ということである。
今後、運行計画の評価・検証をする中で料金を見直さなければならなくなった場合には、定期券の導入や助成ということについても検討していかなければならないと考えている。

（事 務 局）　利便性を考えると、定期券というものも非常に良い。
一方で、運行している側からすると、利用者数や運行収支というものも気をつけなければならない。
その中で、当面の間現行区間においては運賃を据え置くという考えである。
実質、ＩＣカードというものは割引のない定期券と思っていただけるのではないかと思っている。
今後は、ＩＣカードの使い方も含めて、市の広報誌でも紹介して、普及する方が利用者から見た利便性の向上に繋がるのではないかと考えている。

改めて事務局から、次回会議において、最終的に策定する運行計画全体を協議いただくことについて説明。

＜その他＞

（委　　員）　今年の大雪でバス停での乗降が大変だったということがあったので、道路の除排雪等、利用し易い環境づくりについて、市の考え方を盛り込んでいただきたい。

（委　　員）　資料に記載のある、平成３０年度からの７０歳以上の免許返納者に対するタクシー利用券の交付について、情報提供いただきたい。

（事 務 局）　４月からの実施に向けて、制度内容を詰めているところ。
自主返納した場合に出される証明書をお持ちの方に、タクシー運賃の初乗り分の利用ができる券を２４回分配布する予定であり、利用できる期間は２年間としているが、配布は自主返納したときの１回限りである。
自主返納を促す、動機付けという考えで行う。
利用できる事業所は、北斗市内に営業所を構える所を想定しており、今後事業所にご協力いただけるような場を設ける予定である。